

〔類聚名物考姓氏八〕怪名

古しへ阿彌陀釋迦あるは沙彌法師などいへる類ひを付るは、異なる好なれども、又人の好める所歟、後には此事停止せられし事、國史に見えたり、此事唐に起れる歟、唐人紀事のうち、小名録一卷あり、古今人物の幼名ををるせり、その中に維摩迦葉などいへる名見えたり、是らを羨て付しにや、

〔廿二史劄記十五〕元魏時人多以神將爲名

北朝時人、多有以神將爲名者、魏北地王世子、名鍾葵、元又本名夜叉、其弟羅本名羅利、孝文時、又有奄人高菩薩、爾朱榮子一名叉羅、一名文殊、梁蕭淵藻小名迦葉、隋時漢王諒反、其將有喬鐘葵、隋末有賊帥宋金剛、唐武后時、嶺南討擊使上二閹兒、一曰金剛、一曰力士、即高力士也、

〔續日本紀文武〕慶雲元年正月癸巳、授正六位上、文忌寸釋、加從五位下、

〔續修東大寺正倉院文書四〕下政戸六人部久知良戸口十一〇中

寄人嶋阿彌多年廿三

次无量壽少年十九

〔享祿本類聚三代格十七〕勅〇中頃見諸司入奏名籍〇中用佛菩薩及聖賢之號、每經聞見、不安于懷、

自今以後、宜勿更然〇中主者施行、

神護景雲二年五月三日

〔公卿補任陽成〕元慶八年辰甲

參議從四位上橘廣相中略本貞觀九二月十一、文章博士辭而不就改博覽爲廣相、

首書云、貞觀十十一、若狹守峯範奏官云、以佛菩薩及聖賢名號爲人名者、既有格制、而舍利弗別號

博覽比丘、望請改爲廣相者、許之、十五年六月廿三日、前若狹守從五下峯範言、秩滿歸京、嬰病況不

堪、向國辨百姓訴請遣文章博士從五位下橘朝臣博覽、相代辨糺、勅宜遣博覽代父辨之、今案、貞觀